

二中コミュニティ・スクールだより

～市川市立第二中学校学校運営協議会～
「夢・命・絆」

令和5年度第2号
(通算第17号)
会長 小林 俊之
(文責 野手 裕之)

「令和5年度第2回学校運営協議会」報告

令和5年9月20日(水)に、令和5年度第2回学校運営協議会が、第二中学校多目的室において、委員11名の出席のもとで開催されました。

15時30分～17時30分の約2時間、二中生のために協議を行いました。

次第

1. 協議
・学校評価について
2. 報告および意見交換
(1) 学校の様子について
(2) 単元テストについて
3. その他

◎あいさつ

協議に先立ち、杉山校長と小林会長から次のようなあいさつがありました。

○杉山校長のあいさつ

お忙しい中、ありがとうございます。

まだまだ暑くつらい日々であります、夏休みは大きな事故などがなく、安心しております。

コロナが5類になって、以前のように活動ができてきています。1つの学級で学級閉鎖がありました、今のところ、感染が広がってはいないところです。今後も気を付けながら、かつての日常のように過ごせるようにしたいと思います。

本日はよろしく願いいたします。

○小林会長のあいさつ

お忙しい中、また、暑い中、委員の皆様にはご出席していただきまして、ありがとうございます。

9月に入って、学校が始まり、子どもたちの明るい声を聞くことができ、嬉しく感じております。

コロナやインフルエンザが増えているとも聞きますが、二中の学校の様子を伺いながら、子どもたちが楽しく学校生活を過ごせるように、協議していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。



1. 協議

学校評価アンケートについて協議を行いました。それぞれの項目について、アンケート結果や学校としての対応などの説明を受けて、各委員から意見がありました。なお、アンケート結果そのものについては、別途、「学校だより」などを参考にしてください。

① 確かな学力について

保護者アンケートにおいては、特に単元テストに関する自由記述が多かったことから、委員から多くの意見がありました。

学校運営協議会としては、「自主的に(計画的に)学習をする力、学びに対する意欲、問題を解決する力の育成」という目指す方向性から、単元テストなどに対して、(特に、生徒アンケートの結果¹を重視して)肯定的な意見が多数あった一方で、保護者に対するフォロー(理解の促進)がより一層必要であるという意見も複数の委員からあがりました。

② 豊かな心について

保護者アンケートの「学校は、生徒一人一人に豊かな心を育む生徒指導を行っている。」や「学校は、生徒一人一人の主体性を育む取組を進めている。」が前年よりもネガティブになっている一方で、生徒アンケートの「二中は、『生徒の考え』を尊重してくれる学校だと思う。」では、「とてもあてはまる」が大幅に改善していることから、委員から、引き続き子どもたちに寄り添った教育や指導を進めるとともに、保護者への説明をして欲しいという意見がありました。

また、自己肯定感や自己有用感に関するアンケート結果に改善がみられた点は、委員からも肯定的な意見がありました。

③ 健やかな体

保護者アンケートで、「規則正しい生活習慣(睡眠・食生活など)が身についている。」に対して、「そう思う」と「ややそう思う」が約71%から約77%となっており、規則正しい生活習慣は、非認知能力(自尊心、共生感、意欲・関心、職業意識、へこたれない力など)に影響することから²、家庭と学校で力を合わせて、子どもたちの規則正しい生活習慣を維持して欲しいという意見がありました。

¹ 生徒アンケートで、「自分で学習計画を作り、試験の準備を行うことができる」に対して、「とてもあてはまる」と「まあまああてはまる」が、前年の約52%から60%に向上しており、「試験が返されてから、できなかった問題は確認し、わかるようになるような取り組みを行っている」に対して約70%が、また、「興味のあることを調べたり、自分で考えて進めることができる授業は、自分の能力を伸ばすのに大切だと思う」に対して約93%が肯定的に回答していました。

² 「早寝早起き朝ごはん」という規則正しい生活習慣を子供の頃によく行ってきた人ほど、大人になった現在の資質・能力が高い人の割合が多い傾向にあり、また、これらの生活習慣に加えて、様々な体験活動や朝活をよく行い、基本的な生活習慣のしつけを受けていた人ほど、資質・能力が高い割合が多いという傾向がみられた。したがって、子供の頃には、早寝早起き朝ごはんという規則正しい生活習慣だけでなく、様々な体験活動、朝活、基本的な生活習慣のしつけを総合的に行うようにすることが、大人になった時の資質・能力の育成にとって重要であるといえる。」(「早寝早起き朝ごはん」全国協議会「『早寝早起き朝ごはん』の効果に関する調査研究報告書」2021年3月)。

④ 信頼される学校

保護者アンケートにおいて、「学校は、特色ある取組や教育を進めている。」に対して前年と比べて若干ネガティブになっているものの、市平均と比べて10%以上高い評価である点は、とても望ましい結果であると考えられます³。

「二中は、安心して生活できる学校であると感じる」や「二中に入学して、よかったと思う」などの生徒アンケート結果が向上しており、学校運営にとって重要な要素である「子どもたちのため」が反映していると感じられました。

⑤ その他

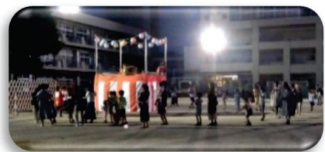
保護者アンケートに寄せられた意見で、部活動の朝練後に軽食を許可して欲しいという意見があり、学校運営協議会としても、課題などを踏まえながらも取り入れて欲しいということになりました。

～二中ブロック地域学校協働本部から～

《盆踊り》

8月20日(日)に、真間小パパの会のイベントに、盆踊りを試験的に開催しました。

今後、課題などを改善し、二中ブロックの子どもたちが楽しめるイベントとしていきたいです。



《見守り活動》

夏休みが終わって、見守り活動が再開しました。

毎日、子どもたちの登校する姿に、心から喜びを感じています。

この活動の中で、子どもたちの些細な変化も気にしながら声がけなどをしながら、子どもたちの自己肯定感を育てていけたらと思っています。

《星空観望》

11月25日(土)に、菅野公民館で、「星空観望」(木星と土星を天体望遠鏡でみます)を行います。

詳細については、後日、お知らせいたします。

二中ブロックコミュニティクラブのブログ(<https://ichikawadai2bc.c.blog.fc2.com/>)でもご案内します。

菅野・須和田地区合同防災訓練について

11月19日(日)に、菅野小学校で、菅野・須和田地区自治会連合会の防災訓練が行われます。詳しくは各自治会からの回覧板などでご確認ください。なお、自治会に加入していない場合でも参加は可能です。お申し込みやお問い合わせなどは、野手まで(nodeuji@nifty.com)。

³「魅力ある学校の創造」や「特色ある学校づくり」について、1998年、日本学校教育学会の機関紙「学校教育研究」で「魅力ある学校の創造」という特集があり、そこで、日本学校教育学会や日本社会教育学会の会長などを歴任した新井郁男先生は、「さまざまな教育改革案が次々と提言されている。[省略]提言が多量であるといっても、そこには『魅力ある学校』という理念が通底しているように思われる。[省略]教育にかかわる者で、『魅力ある学校』を創造すべきだという提言自体に異を唱えるものはいないであろう」(新井郁男稿『『魅力ある学校』創造の最重要課題』『学校教育研究』、第13巻、1998年。)と述べています。

～市川市PTA連絡協議会からのご案内～

★第55回日本PTA関東ブロック大会(ちば大会)について

10月28日(土)～29日(日)に、「第55回日本PTA関東ブロック大会(ちば大会)」が開催されます。今回のスローガンは「Re:OO～ちば発 明日につながるPTAのカタチ」です。



10月28日は、7か所で分科会が開催され、第一分科会(テーマ:Refresh)では落語家の林家うん平師匠による「向こう三軒両隣…自分の子も、よその子もみんな地球の宝もの-落語から楽しく学ぼう人間の情」や、第二分科会(テーマ:Reborn)では原田豊先生(立正大学データサイエンス学部教授)による『聞き書きマップ』がひらく『安全点検』の新しいカタチ」といった講演の他に、多くのPTAなどから発表があります。

10月29日(日曜日)は、千葉ポートアリーナで全大会があり、鈴木おさむ氏(放送作家)による記念講演『演題～鈴木おさむ流 OOのカタチ～』などがあります。

※詳しくは、上記QRコードから特設ホームページをご参照ください。

★千葉県PTA連絡協議会主催コンクールの募集について

以下の2つのコンクール作品を募集しております。10月11日(水)までに学校にご提出ください。

(1)【健全育成に関する標語コンクール】

親から子への呼びかけ及び会員同士や、社会全般への呼びかけの内容

(2)【実践記録「我が家の家庭教育」作文コンクール】

理想論に終わらず、かくありたいと願い、実践してきたことの経歴や今後の課題等が率直に表現されているもの(1,200文字程度)

《問い合わせなど》

市川市教育委員会学校地域連携推進課(担当:田中 悠太) 383-9386

市川市立第二中学校地域学校協働活動推進員 野手 (nodeuji@nifty.com)

「東洋経済 education×ICT Summer Festival 2023」に参加して



10月25日までアーカイブ配信の申し込みができます。視聴期限は10月31日までです。上記QRコードから特設サイトにアクセスできます。

8月5日に、「東洋経済 education×ICT Summer Festival 2023」の午後の部(Talk Session)に参加してきました。

養手章吾先生⁴と川上康則先生⁵による『『大人都合』の学校からの脱却一足並みそろえさせない!令和の学校づくり』をテーマとしたトークセッションと、戸ヶ崎勤先生⁶と今村久美先生⁷による『『GIGAスクール構想3年目の実際』-個別最適な学びと協働的な学び-』をテーマとしたトークセッションでしたが、通底していたのは、子ども一人一人に応じた支援(教育)の重要性でした。

まさに、中央教育審議会の答申『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』(令和3年1月26日)における「個別最適な学び」の大切さを改めて認識しました。

⁴ HILLOCK(ヒロック)初等部校長。文部科学省DX推進委員など。

⁵ 養護学校主任教諭、公認心理師、臨床発達心理士など。

⁶ 戸田市教育委員会教育長、第12期中央教育審議会委員など。

⁷ 認定NPO法人カタリバ 代表理事、文部科学省中央教育審議会委員など。